

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18		
自己評価作成日	令和8年6月10日	評価結果市町村受理日	令和8年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和8年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園があり、周辺環境が良いです。臨時の受診や定期的な受診には、ご家族、職員が付添うように努めています。経験のある介護従事者がいる為、医療機関との連携もとりやすいです。スタッフの気づきが多いことも魅力です。規模の大きな会社が運営している為、介護に関する情報を全国から得ることができます。事故を最低限に抑えるためヒヤリハットに力をいれており、各ユニットへのラウンドも適宜おこなっております。レクリエーションに関しては社共の方にお手伝いいただき、各ユニットだけで行うのではなく全員のお客様が集まって楽しんでいただけるようとりくんでおります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に心を傾ける」を事業所の理念とし、自治会・社会福祉協議会等の協力を得て、地域交流の機会づくりに注力している。運営推進会議への複数の家族参加、家族アンケートの実施、家族との面会・外出支援等、家族とのつながりを大切にしている。PDCAサイクルに基づいたケアマネジメントにより、利用者がその人らしい暮らしを継続できるよう個別支援に取り組んでいる。各ユニットに、利用者個々の写真と心身状況・ケア方法・留意点等を明記した資料ファイルを設置し、全職員が安全に統一したケアが行えるように工夫している。看護師の配置があり、主治医・訪問看護師等と医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「私たちは世界一番仲間を大切にするチーム」と改め、一丸となって利用者様のよりよい実践する為、一人一人の幸せについて考えています。	全体会議で検討し、「地域に心を傾ける」という事業所理念を策定し、地域密着型サービスの意義を明示している。理念を各ユニット内に掲示し、職員の共有を図っている。自治会や社会福祉協議会の協力を得ながら地域交流に注力し、事業所理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣自治会や民生委員、社共の方々等、事業所もお手紙や行事のおすそ分けなど、ボランティアの方々と交流しております。	自治会に加入し、自治会長・民生委員等の協力を得ている。「自治会だより(回覧板)」を活用し、地域の情報把握や事業所の紹介等を行っている。散歩の際は近隣住民と挨拶を交わし、敬老の日には紅白饅頭を配布している。また、演奏や将棋等のボランティアの来訪があり、利用者が地域の方々と触れ合う機会を設けている。連休中や年末年始の駐車場開放、こども110番、地域の福祉避難所としての登録、事業所前の清掃活動への参加等、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時の福祉避難所として、事業所を利用して頂きます。認知症ケアにかかわる地域の方々の交流の場に出ています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の環境も落ち着きを見せる中お客様の面会・外出も再開しております。外部のボランティア活動等、どんどん取り入れ活動を開始しております。今後の開催についてはご家族様にも参加していただけるよう考えております。	家族・市職員（高齢介護課）・高齢者生活支援センター（社会福祉協議会）職員・地域代表（自治会代表・民生委員）・事業所職員を構成委員とし、2ヶ月に1回に集合開催している。開催案内に「意見・要望」欄を設け、参加できない構成委員の意見の把握にも努めている。会議では、レジュメを配布し、利用者状況・職員状況・研修・事故・拘束、虐待等現状報告等を行い、参加者と意見・情報交換を行い議事録に記録している。議事録は、構成委員と全家族に郵送している。写真による献立の見える化等、運営推進会議での意見をサービスの向上に反映している。	個人情報に配慮の上、公開用議事録ファイルを玄関に設置する等により、議事録を公開することが望まれる。また、知見者の参加や、可能であれば利用者の短時間参加が得られるよう取り組むことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの空き情報と利用者状況はご報告しています。高齢介護課よりこまめなメール配信いただき、不明確な点は伺うようにいたしました。	市職員の運営推進会議への参加、監査指導課や高齢介護課の指導・助言、定期的な（2ヶ月に1回）権利擁護支援センターからの訪問等を通じて、市と連携している。福祉的支援を要する利用者については、市の保護課と協働して支援している。事故報告等は迅速に行い、質問・相談・判断に迷う事項があれば、随時、市の担当部署へ問い合わせを行い、適正な運営につなげている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6		(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設置しており、毎月各ユニットの状況を話し合って改善策はないかを確認しております。さらに職員には研修を年2回行い、振り返りを行っております。職員間での注意できる関係性は気づき、お客様ファーストに向け努めております。	「身体拘束等の適正化のための指針・高齢者虐待防止のための指針」を整備している。毎月、全体会議の中で「身体拘束等の適正化・虐待防止検討委員会」を開催し、身体拘束事例・虐待事例の有無の確認、研修の実施状況の確認等を行っている。職員はQRコードの読み取りにより議事録を閲覧し、本社で職員への周知状況を確認している。年間研修計画に「身体拘束適正化・高齢者虐待防止」研修を年2回計画している。令和8年度は、4月に身体拘束・虐待防止マニュアルを使用した講義形式の研修を実施している。参加者は「研修報告書」を提出し、欠席者は資料配布と「研修報告書」の提出により周知を図っている。2回目は10月に予定している。「虐待の芽チェックリスト」・「身体拘束・虐待防止チェックリスト」による振り返りの機会を毎月設け、身体拘束・虐待を行わないケアに取り組んでいる。安全上、エレベーター・玄関は施錠しているが、日曜日の散歩、家族との外出等、戸外へ出かける機会づくりに努めている。	研修の実施状況や内容が明確になるよう、実施記録やファイリングの工夫が望まれる。委員会では、拘束事例・虐待事例がないことを確認した場合でも、スピーチロック等の行動制限につながる事例や、不適切なケアにつながる事例の有無を確認し、未然防止に向けた検討を行うことが望まれる。
7		(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置しており、定期的にセルフチェックシート活用し虐待の芽を摘むよう努めております。	高齢者虐待防止に関して、指針の整備・委員会の開催・研修実施・各種チェックリストによる振り返りは、上記のとおりである。管理者が毎日数回各ユニットをラウンドし、不適切ケアの防止に取り組んでいる。また、管理者による定期的・随時の個別面談とともに、法人としてもストレスチェックの実施、相談窓口の設置等により、職員のストレスや不安等がケアに影響を及ぼさないよう取り組んでいる。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、利用いただいているお客様の気持ちをお一人お一人大事にしております。また、後見人様等制度の利用されている方にも偏りのないサービスを提供できるよう心がけております。	司法書士が後見人となる制度の利用事例があり、面会対応、金銭管理資料の送付、状況報告等を通じて制度利用を支援している。権利擁護センターとの連携があるため、今後、家族等から制度利用に関する相談があれば、協力を得られる体制がある。今年度は、法令遵守研修の中で、権利擁護に関する制度についての研修を実施する予定である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お困り事をより深く伺い、ニーズに合ったサービスのご提案をお伝えしております。また契約時に重要事項説明書等で、可能なこと不可能なことをきちんとお伝えし相互の確認を行っております。入居後はこまめに要望や、ご相談をうかがえる体制をとっております。質問は随時受け付けております。	入居希望や入居相談があれば見学対応し、パンフレット(料金表等)を用いてサービス内容や費用等を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等を基に、利用者・家族のニーズに沿って説明し、特に、グループホームの特徴や事業所の特徴、事業所での対応可能なこと・対応困難なこと等を丁寧に説明し、文書で同意を得ている。契約内容の改定時は、文書で通知する、同意書により同意を得るなど、改定内容に応じて対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では全体会議・リーダー会議にて話を聞く体制を設け、可能な限り意見を反映させています。また、会社組織でも相談改善できる部署の掲示物を張っております。	家族の面会・電話連絡時等に近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。家族・利用者等から聴取した意見・要望は、朝礼や各ユニットの「申し送りノート」で伝達し、個別の要望等は「ケアカルテ」で共有し、個別に対応している。運営推進会議には複数の家族が参加しており、事業所や外部者へ意見を伝える機会がある。また、運営推進会議案内状に「意見・要望」欄を設け、参加できない場合でも意見・要望を伝えられるよう配慮している。市の権利擁護支援センターによる訪問があり、利用者が外部者へ意見を伝える機会を設けている。法人として家族アンケートを実施し、家族の意見・要望等を法人から事業所へフィードバックしている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に現状をご報告したり来客の際にはお写真を見せるなどを行い工夫をいたしました。ご要望などが、ないかはこちらからうかがうようにいたしました。	月1回、全体会議・ユニット会議・リーダー会議を開催するとともに、各種委員会を定期的 に開催し、職員の意見・提案等を把握する機会を設けている。全体会議では、昨年度は主として身体拘束・虐待防止に関する検討及び検討結果の共有を行い、今年度はこれらに加え、事業所運営についての報告・検討等を行うとともに、研修を実施している。ユニット会議では、利用者個々のケアやユニット内の業務について検討を行っている。上記会議の議事録はユニットごとにコピーを回覧し、周知を図っている。日々の検討事項については、管理者が決定内容を文書化し、「申し送り事項」として共有・周知している。管理者は定期的に、また必要に応じて随時、個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。法人としても、職員アンケートを実施し、法人へ職員の意見を伝える機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・契約更改制度を使って、面談等を行い、話を聞いて、目標設定や時には改善と指導に取り組んでいます。また、随時面談を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター研修をはじめ本社案内の研修や、資格習得に向けての促しなどを行っております。職員の資格取得にも、補助供与をはじめとして会社・施設として後押ししています。また、現場ではトレーニング制度を設け新入職者の方にも安心していただけるよう体制をとっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークの定期的な情報共有はメールなどで行えました。		

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困り事は何かをうかがい、ご家族様と共に支えていくことを指針に努めております。今までの環境・背景・嗜好等あらゆる角度からサービス体制が行える視点をもって柔軟に対応できるよう努め、受容を大事にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の悲しみや苦しみ、葛藤等を深く傾聴し、お気持ちやサービス提供の異存はないかを入念に確認しております。大切なご家族様への対応が想像できるよう、連絡を取るように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで知り得たニーズを第一とし、初期は短めの計画書を作成し、柔軟に対応の変更ができるよう作成しております。また、ご本人ご家族様に説明を丁寧におこなったうえ同意確認をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の視界に入るよう目線をさげる、時には同じテーブルでお茶を飲むなどを行い、会話をする機会と時間に関係なく傾聴しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、家族様には日々の状態報告を行い、情報を共有しお互いに支え合えるように取り組んでいます。事業所でカバーしきれないところは、家族様にもご協力を頂いています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客の機会を奪うことなく面会いただきました。重ねて認知症のご理解と橋渡しにも努めました。	事前連絡を受け、家族の面会、家族の了解を得て友人・知人との面会に対応している。居室・フロアまたは外出等でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みのある人との関係継続を支援している。馴染みの場所へは、主として家族と外出・外食できるよう準備や調整を行い支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周りの利用者同士で交流が持てるように、間に職員が入り、会話が進むように支援しています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、お手紙をお出ししたり、お電話で近況を聞いたり、何か困ったことがあればご相談して頂く様に声を掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いにより添えるように、普段より関わりを増やし、ニーズの把握に努めています。	入居前面談後に「アセスメント表」を作成し、「生活歴」「趣味・特技・楽しみ」「本人家族の希望・主訴」「要望・生活に対する意向」等の欄を活用し、利用者の思いや暮らし方の希望・意向について把握するよう努めている。入居後の会話等から把握した内容については「ケアカルテ」と「支援経過記録」に記録し、申し送り機能で共有している。把握が困難な場合は、利用者の表情等から推察し、利用者の意向に沿った支援ができるよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・家族来訪時に聞き取りを行い、少しでも多くの情報収集に努めています。普段の会話からも、ご本人の来歴を聞き取るよう努めています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こまめにモニタリングを行い、状態把握に努めています。毎日の御様子も、職員間で共有できるようにノートで連絡を取り合っています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、現状把握と共に情報共有し、介護計画を作成しています。また、他職種・家族にも聞き取りを行い作成しています。	入居前サービス事業所からの情報や、入居前面談内容から作成した「アセスメント表」等をもとに初回の「認知症対応型共同生活介護計画（以下「介護計画」）」を作成している。初回は概ね2ヶ月を目標期間とし、その後は長期目標期間を1年、短期目標期間を6ヶ月としている。「介護計画」の「サービス内容」の実施状況を、「ケアカルテ」の「モニタリング」に毎日記録している。「介護計画」は、必要時は随時、定期的には短期目標期間（6ヶ月）ごとに見直しを行っている。見直しの際は、「モニタリング総括表」による評価と「アセスメント表」による再アセスメントを行っている。利用者・家族・管理者・主治医・訪問看護師・計画作成担当者・ユニット内の全介護職員の意見を書面や事前の聞き取り等により集約し、サービス担当者会議の議事録に記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より気づきがあれば、職員同士でも情報の共有化を図っています。介護援助計画表を使用して、情報の共有と統一に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、入所時の荷物の搬入のお手伝い、書類作成のお手伝い等、可能な限りでサービスを提供しています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所前の清掃や近隣の住民の方とは挨拶は行いました。敬老の日等紅白饅頭をお配りするなど、連休中や年末年始は遠方から来られる近隣のご家族様へセンターの駐車場に車を停めていただく等の対応をおこなっております。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症であっても適切な医療を受けられるように協力医師の連携を取りました。	協力医療機関の総合内科医による月2回の訪問診療と、希望に応じて歯科の訪問診療を受けられる体制がある。また、週1回の訪問看護と24時間オンコール体制がある。希望に応じて、入居前のかかりつけ医を継続することも可能である。他科については外部受診としており、状況に応じて家族対応または事業所が対応している。訪問診療・外部受診に関する記録は「ケアカルテ」に記録している。また、訪問診療・訪問看護については「訪問診療記録」「訪問看護記録」にも記録し、医療連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月4回とオンコール体制を取り、随時連携をとれるようにしております。必要であればかかりつけ医にも連絡を行い、連携しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要であれば介護サマリーを提供し、情報を提供しています。また、退院時には地域連携室の方々と連携を取って、速やかに対応しています。	入院時に、要請があれば「介護サマリー」を用いて情報提供している。入院中は、家族・地域医療連携室と利用者の状況等について情報共有を行い、早期退院に向け支援している。退院に向けて地域医療連携室と退院調整を行い、「看護サマリー」「診療情報提供書」等を受領して状況を把握している。状況に応じて、退院前または退院後に介護計画の見直しを行い、退院後の支援を検討している。入院中の経過や退院前の情報等は、「ケアカルテ」に記録し共有している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より身体状況を報告したり、事前に看取りについての話し合いを重ねています。重度化した際は改めて説明し、必要であればカンファレンスを行ない方針や対応について共有するよう努めています。	契約時に、「認知症対応型共同生活介護における重度化した場合の対応・急性期における医師及び医療機関との連携体制・看取り対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。重度化した段階で、主治医が家族に状況説明を行い、意向確認を行っている。看取り介護の希望があれば、看取りに向けた介護計画を作成し、主治医・訪問看護師・家族・事業所職員で連携し、チームで看取りを支援している。看取り介護に際しては、その都度研修を実施し、職員に病状や経過、対応等についての理解の促進を図っている。さらに、年間研修計画を基に、今年度は3月に「ターミナルケア」研修を予定している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については入職時より連携手順を伝えており、研修も行っています。また、事故発生時や事故になり得る状況であった時(ヒヤリ)、報告しカンファレンスを行ない、対応について話し合います。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修で改正部を周知しています。災害時の避難場所についても周知を図るとともに、普段より近隣の方にお声をかけ、災害時に協力が得やすいように、努めています。備蓄品を常備しています。	令和8年3月に夜間想定で火災総合訓練を、令和7年9月に昼間想定で自然災害後の火災訓練を実施し、「防災訓練報告書」を作成している。報告書は各ユニットで回覧し、参加できなかった職員にも共有している。今年度は、7月および1月に消防訓練の実施を計画している。BCP災害時訓練・研修は7月に実施を予定している。運営推進会議を通じて自治会代表・民生委員等と協力関係があり、事業所としても災害時の福祉避難所として登録し、地域との相互協力体制を築いている。BCP備蓄リストに沿って水・食料等を2階に保管し、管理者・事務職員が管理している。	事業所が洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域など、ハザードマップに掲載されている区域内に立地するかを再確認し、必要に応じて避難確保計画の作成や避難訓練の実施を検討することが望まれる。

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の観点から、何気ない声掛けが相手にどの様に受け取られるかを考えるように指導しています。また、事業所内外の研修を通じて接遇についても理解を深めています。	「虐待・身体拘束」「プライバシー保護」「認知症ケア」等の研修を実施し、「虐待の芽チェックリスト」「身体拘束・虐待防止チェックリスト」による振り返りや、「身体拘束等の適正化・虐待防止検討委員会」等を通じて、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識向上を図っている。管理者が毎日数回各ユニットを巡回し、環境・ケア・声かけ等について気になる事項があれば、その都度、注意喚起・助言を行っている。写真・映像の使用については、館内使用に限定し、入居時に文書で同意を得ている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂ける様な声掛けを行うようにしています。夜間やご不安な時も随時お話を伺います。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように心を傾け、気持ちに寄り添って対応しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で選んで頂ける方には選んで頂き、難しい方に関しては、本人に合った服装を意識しています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に関しては調理をはじめ可能な限り行なって頂いています。感謝のお声かけも欠かしません。	炊飯は各ユニットで行い、委託業者から届く食事を湯煎・盛り付けて提供している。利用者個々の状況に応じて、ペースト食は発注し、きざみ食・一口大食は事業所に対応している。委託業者の献立には季節感や行事食等の工夫があり、また、おやつレクリエーションやルーフバルコニーでのお茶会等、利用者が楽しめる機会づくりを工夫している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態を考え、適宜変更しています。また、病状に合わせ医師の採血データより改善できる部分是对应しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。ご本人で行なって頂く場合でも、見守り後、職員が不十分な箇所をケアさせて頂いています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自己排泄が出来るように支援しています。また、排泄リズムの把握に努めています。	排泄の自立度に個人差が大きい状況であり、「排泄記録」で排泄状況・排泄パターンを把握し、個々の状態に応じて、声かけ・誘導・見守りや介助を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。「排泄表」で、利用者個々の排泄パターン・排泄用品・配慮事項等を共有し、個別支援に取り組んでいる。介助方法・排泄用品等について検討事項があれば、家族の意向も確認し、検討結果を「申し送りノート」「ケアカルテ」で共有し、現状に即した支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分を1500CCを目標、水分量の把握に努めこまめに水分提供をしています。また食物繊維や乳製品の提供、適度な運動を行い、自己排泄をして頂けるように支援しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いくなく入浴に入っていただくお声がけを行っております。また、個別対応をすることで時間を有意義にとり、リラックスできるよう努めております。	「入浴予定表」を基に、当日の体調や意向等も考慮しながら、週2回入浴できるよう調整している。身体状況により、浴槽での入浴が困難な場合は、シャワーキャリーを使用したシャワー浴で対応している。入浴の実施状況は「ケアカルテ」に記録し共有している。各ユニットに一般浴の個別浴槽が設置されており、一人ごとに湯を入れ替え、希望に応じて入浴剤を使用している。会話の時間を大切にしながら、個々のペースで入浴が楽しめるよう支援している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮して、臥床して頂いたり、ソファでお休み頂いたり、食事時間をずらしたりと工夫して、休息して頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、最後まで飲み終わったかの確認を怠らない様にしています。また、お薬情報をすぐに確認できるようにファイル保管し、効用などの把握に努め変更時は申し送りを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前からの情報と現在の会話を通じて本人の嗜好等を把握し、楽しみのきっかけを提供できるよう努めています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日はお風呂がない日に設定しておりますので外出の機会を積極的に努めております。最近ではご家族様のご協力もあり外食等も積極にご協力いただいております。事業所内で気分転換下肢筋力の低下予防に努めました。	天候や希望に応じて日曜日に近隣や公園へ散歩に出かけられるよう努めている。春には近隣へ花見に外出した。ルーフバルコニーや玄関前の花壇等で外気浴や気分転換が図れるよう取り組んでいる。また、家族の協力を得て、家族との外出や外食を支援している。	日常的な外出や季節の外出等、引き続き外出支援に取り組まれることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能な方は、高額にならない程度で、ご自身で管理される方もいますが、管理が難しい方に関しては、事業所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、行なって頂いています。相手様にも出来るだけご協力頂くようお伝えしています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を演出しています。利用者や家族様が作成した装飾や季節の花を花瓶に生けたり工夫しています。	各ユニットにテーブル席・ソファ・畳スペースが設置され、利用者同士の相性に応じた配席にも配慮し、思い思いに過ごせる居心地のよい環境づくりに努めている。壁面に共同制作した季節の作品を飾り、玄関前の花壇に季節の草花を植栽し、日常生活の中で季節感が感じられるよう工夫している。各フロアにはキッチンスペースを設け、調理の様子を見ることができるほか、可能な利用者がモップ掛け・洗濯物のたたみ・干し等の家事に参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。日中はリビングで過ごす利用者が多く、テレビ鑑賞・体操・制作・会話等、個別・集団レクリエーション活動を楽しめるよう工夫し、その人らしい暮らしが継続できるよう支援している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士でお話しされる様に、食事の座席やリビングのソファの配置に配慮しています。職員も随時お声をかけます。		
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様と相談のうえ、ご自身のなじみの物を持ち込んで頂くよう、お声をかけさせて頂いています。	居室は広く、クローゼット・カウンター・ベッド等が設置されている。箆笥・椅子・テーブルセット・テレビ・寝具・家族の写真・時計・人形等馴染みのある物や、プロ野球チームのグッズ等の趣味の物が持ち込まれており、居心地よく暮らせるよう支援している。利用者個々の心身状況や動線に応じて、家具の位置や向きを考慮し、安全に自立に向けた生活ができるよう取り組んでいる。居室前にネームプレートと顔写真を掲示し、部屋間違いのないよう配慮している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることと出来ない事の把握に努めて、自立できるところは継続して出来るように意識しています。		